Remarks by

HE Takaaki Kojima

Ambassador of Japan

at the Opening Reception

on the occasion of

The Conference of the Japanese Studies Association of Australia (JSAA) and International Conference on Japanese Language Education(ICJLE) 2009

The Art Gallery of New South Wales

Monday 13th July 2009

5:30pm

Her Excellency the Governor,

Professor Anderson,

Distinguished Guests,

Ladies and Gentlemen,

It is my pleasure to take part in this Reception for the 2009 Joint Conference of the Japanese Studies Association of Australia(JSAA) conference and the International Conference on Japanese Language Education (ICJLE) in Sydney. It is wonderful to see such a diverse range of participants at this highly regarded conference.

To all the members of the JSAA – the professionals who teach, research and study Japan – I thank you for your continued dedication and interest in Japanese studies and Japanese language education and for the invaluable contribution you have made to Australia-Japan relations; both as individuals and as members of

the JSAA. Since its establishment in 1978, the JSAA has steadfastly worked to promote the study of Japan and the teaching of the Japanese language in Australia.

The JSAA's encouragement of scholarly work on Japan is a key element in the continuation of understanding between our two countries. As Japan's Ambassador to Australia, I place great value and emphasis on the importance of our educational ties. I applaud your efforts.

Under the theme "Bridging the gap between the Japanese language and Japanese studies," this year's conference will host a discussion by Japanese language and studies educators from around the world. We will hear about new pedagogical ideas and research in a broad range of disciplines including language, linguistics, literature, sociology, culture, education,

politics, economics and other fields. So, for the remainder of my remarks, I will speak in Japanese.

海外での日本研究は、『源氏物語』などの古典文学研究に代表される日本文化研究から、19 世紀以降の我が国の急速な政治・経済の近代化の過程や日本的経営方式など実利的研究、さらには、近年ブームとなっている、マンガ、アニメ、音楽といった J-POP に関する研究まで多様化しています。

ここ豪州では、日本研究は、第二次大戦後、豪州と日本の経済的、政治的関係が深まっていくなかで、こうした状況に対処するために必要となる言語や文化的知識への欲求という観点から発展を遂げました。豪州政府諸機関による日本及びアジア地域研究の奨励もあり、今回会場になっている NSW 大学やシドニー大学を始め、豪州のほとんどの大学で、日本の現代社会、経済、政治、法律、歴史、文化の多様な分野で重要な日本研究プログラムが展開されております。また、当然ながら、日本語教育は日本研究の基盤となるものです。以上から、今回、世界各国の日本研究者と日本語教育者の方々が、ここシドニーに集まり「日本語と日本研究の協働」についての討論が行なわれることは、両者にとって非常に意義のあることであると考えます。

海外における日本語教育に焦点をあてますと、国際交流基金が実施した 2006 年の調査によれば、世界の 133 カ国・地域で約 300 万人が日本語を学習しており、過去 30 年間で、海外の日本語学習者の数は 20 倍以上、日本語教育機関数は 10 倍以上に増えています。ここ豪州では、初等教育レベルから高等教育レベルまで 35 万人以上が日本語を学習しており、この数字は韓国(91 万人)、中国（68 万人）に次いで世界第 3 位と非常に盛んです。

現在、豪州政府は、アジアとのつながりを深めるため、日本語を含めたアジア言語の振興に力を入れております。その一環として、今後 10 年間で中国語、日本語、インドネシア語、韓国語を流暢に話す 12 年生の数を倍増すべく、約 6, 000 万豪ドルを計上し、2009 年 1 月から高校段階において追加的なアジア言語クラスの増設や教員のトレーニングを行う「NALSSP（ﾅﾙｽﾌﾟ）」(アジア言語文化振興政策)を開始しました。

このような豪州における初等中等教育レベルでの日本語学習への関心の高まりを受け、麻生総理は、昨年 11 月に東京で行われた日豪会議において、日本語学習が人的交流の促進について果たす役割を共同で研究し、高等教育や高度な研究における日本語学習とビジネスのつながりを強化する方策について検討することを提案しました。これを受け、本年 5 月、中曽根外務大臣の豪州訪問の際の日豪外相会談においても、本件に

ついてさらに具体的な議論がなされるなど、次回日豪会議に向けての検討が日豪両国で行われているところです。

日本政府は、このような取り組みに加え、今後一層の日本研究、日本語教育の支援のために、国際交流基金による高校生、日本語教員、日本研究者を対象とした日本への招聘事業や JENESYS（ｼﾞｪﾈｼｽ）プログラムによる青少年交流などに、より一層取り組んでいきたいと考えております。

最後になりますが、本大会が皆様方にとって貴重な経験となるとともに、豪州、更には世界における日本語教育研究、日本研究の発展に重要な役割を果たすことを期待して私の挨拶にかえさせていただきます。

【了】